

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている やや良くなっている	-	-	-
		商店街（代表者）	来客数の動き	・高速道路料金引下げの影響で、土日、特に日曜日の来客数がかなり増えている。そのため、飲食店を中心に需要が増えている。
		一般小売店〔書籍〕（営業担当）	お客様の様子	・必要か不必要かを厳しく色分けしているが、必要なモノにはお金を惜しまないように見受けられる。
		コンビニ（総務）	来客数の動き	・高速道路料金引下げにより四国への観光客が増加しているため、週末の来客数が徐々に増加している。
		乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・エコカーに対する減税及び援助金の計画発表により、新車の購入を控えていた客が商談をするケースが多くなった。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	来客数の動き	・4月は花見の時期であり、売上も少し上昇したが、現在は少し落ち着いた。
		通信会社（企画）	お客様の様子	・年度替りで異動の多い時期ではあるが、加入数は若干伸びており、反応もよい。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・3月末から4月に掛けて客が戻ってきている。
	競艇場（職員）	来客数の動き	・4月下旬から競艇場のナイター営業が始まったが、予想より入出は多い。	
	変わらない	商店街（代表者）	それ以外	・高速道路料金引下げの影響で県外ナンバーの車が約2倍に増えたが、逆に買い物客等の県外への流出も増加した。
		一般小売店〔乾物〕（店員）	販売量の動き	・高速道路料金引下げで、マイカーでの観光客が増えているが、逆に県外に出る人も多く、百貨店などは大変厳しい状況が続いている。店舗が百貨店の中にあるので、売上は厳しい。
		百貨店（営業担当）	単価の動き	・約1年前から高額商品が売れなくなっているが、それ以上に生活必需品の単価が前年に比べて落ちており、厳しい状況である。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・相変わらず前年割れが続いている。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・買上客数及び客単価共に、この3か月間、同じ割合で減少している。
		家電量販店（営業担当）	販売量の動き	・冷蔵庫、洗濯機の伸びが悪くなっている。まだ使用できるので次の機会に、といった感じである。しかし、気温の変化により早めにエアコンを購入する客が増え、売上は順調に伸びている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・底打ちの感はあるが、相変わらず販売量が伸びる傾向が見られない。
		タクシー運転手	来客数の動き	・花見客の利用も期待外れであり、歓送迎会等も少ない。政府の景気対策の甲斐もなく、財布のひもは固くなるばかりである。
		通信会社（管理担当）	販売量の動き	・先月から徐々に景気回復の兆しも見られたが、今月は市場全体の状況からも変化はあまり見受けられない。
		通信会社（支店長）	お客様の様子	・来客数は先月と比較してほとんど変化は見られない。購入に慎重で、受注までには至っていない。
美容室（経営者）		お客様の様子	・先行きに不安を持っている客が多い。	
やや悪くなっている	一般小売店〔酒類〕（経営者）	単価の動き	・飲食店での売上が伸びない。	
	百貨店（営業担当）	それ以外	・前年同月に比べ来客数、売上高共に下回った。食品類が健闘したが、宝飾品および紳士用品類の苦戦が目立った。また、催事も物産展の食品は好調に推移したが、全般には低調であった。	
	スーパー（企画担当）	単価の動き	・各社値下げ傾向にあり、客数の下げ止まりにはなっているが、購入点数が変わらず金額全体としては落ちている。	

		衣料品専門店 (経営者)	来客数の動き	・高速道路料金引下げにより、土日、特に4月後半の祝日は、昨年に比べて大幅に売上減となっている。平日は前年並みか微増であるが、週末は相当影響があり、全体的にも厳しい状態になっている。
		衣料品専門店 (経営者)	単価の動き	・店頭の高価格商品には見向きもせず、低価格商品しか売れない。定額給付金に合わせた商店街のプレミアム付き商品券発行等のタイアップ企画もあるが、一向に盛り上がらない。
		観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・安い団体ツアー等が減っていないため、地域全体としては客は減っていないが、個人客相手の単価が高い旅館は客が減っている。
		都市型ホテル (経営者)	来客数の動き	・来客数が減っている。それに加え単価が更に落ち込んでいる。
		タクシー運転手	お客様の様子	・乗客の9割が給料が全然上がらないと言っている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・全体に乗客が減っており、中距離・長距離が少ない。特に夜に飲みに出ている人が少ないので、夜の客が減り、売上が伸びない。
		ゴルフ場(従業員)	来客数の動き	・来客数が目立って落ちてきている。2、3か月前に比べると、例年、季節的にも若干増える時期であるが、落ちてきている。
悪くなっている		商店街(代表者)	来客数の動き	・郊外大型店が進出したこと、また、天候に恵まれたこともあり、人の流れが少し変わり、商店街への来客数が減った。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・商店街での自転車の過剰撤去で、通行量の減少に拍車がかかっている。インフラが未整備の状態での自転車の追い出しで、商店街のにぎわいは確実に奪われている。
		一般小売店 [酒](販売担当)	単価の動き	・酒類・加工食品の小売及び卸価格は上昇に転じたが、景気悪化に伴い安値での乱売合戦が激化しており、納入先料飲店からも納入価格の値下げを要求されている。しかし、個人零細商店では対応出来る事は限られている。
		百貨店(販売促進担当)	販売量の動き	・定額給付金の給付や高速道路料金引下げの影響で郊外への旅行などへお金の流れている。
		スーパー(店長)	お客様の様子	・前年までは衣料品や日用品での売上減少が続いていたが、今年からは食品も価格を下げないと売れなくなっている。
		スーパー(店長)	単価の動き	・一人あたりの買上点数は伸びているが、単価が上がらない。この状況は2~3か月前から続いている。ギフト商品も、例えば果物では売れ筋が5キロ箱から2.5キロ箱に移っており、単価の下落が続いている。
		スーパー(財務担当)	販売量の動き	・デフレ傾向で価格が低下している。
		衣料品専門店 (経営者)	来客数の動き	・来店した客は前年並みに購入しているが、来客数がかなり減っている。
		乗用車販売店 (営業担当)	販売量の動き	・4月より自動車関連税制改正が施行されたが、追加対策で購入補助金案が持ち上がり、買い控えが起きている。4月の受注は前年比84.3%となっている。
		乗用車販売店 (役員)	販売量の動き	・ハイブリッド車ばかりが売れる傾向になっている。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・知人に景気について聞いてみると、「どの店も客がいない」という回答が多い。
		その他飲食 [ファーストフード](経営者)	来客数の動き	・外食への支出が一番影響が大きい。単価の低い店にも景気悪化の波が押し寄せ、来客数、売上の減少になっている。
	美容室(経営者)	お客様の様子	・入学シーズンの割には前年同月と比較すると、来客数、客単価共に伸び悩んでいる。定額給付金の給付も始まったが、客との会話でも生活必需品に使うようであり、サービス業への恩恵は少ない。	
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	通信業(営業担当)	それ以外	・自動車部品を製造している企業が、出勤社員数、操業日共に大きく削減していたのが、4月に入り回復の傾向が見られる。社員用駐車場の車の数が、3月以降、訪問するたびに増えている。
		不動産業(経営者)	受注量や販売量の動き	・3か月前の非常に厳しい状況から、やや良くなっている。特に最近、成約にはなっていないものの、引き合いは増えてきている。

	公認会計士	取引先の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・顧問先の決算書・試算表を見ると、高速道路料金引下げの影響からか、ホテル・旅館・おみやげの店を中心に回復の兆しが見える。 ・今月は受注量や販売量がそこそこ動いている。 	
変わらない	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・荷動きが悪く、値下げ要請がある上に、各小売店よりプライベートブランド化の動きが活発になってきている。	
	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・大型クレーンは仕事量が乏しく、チャーター料金はますます下落傾向にあり、厳しさが増すばかりである。小型クレーンはトラックの登録台数が低調で、先が見えない状況にある。高所作業車についてはレンタル業界での企業倒産も増加している。債権の心配をしながらの営業活動が続いている。	
	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・環境分野は好調である。電気設備分野はやや悪いが、年度末であるので仕事はある。機械分野は大手相手であるが、全く受注がない。	
	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ここ数か月、公共事業、民間とも極端に受注量が少ない。	
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・地価の下落、受注の縮小、競争の激化など、明るい材料はない。	
	建設業（総務担当）	それ以外	・依然として、国際貨物取扱量、製紙業者や製造業者からの出荷数量は減産体制で推移している。取扱数量も前月並みで推移している。	
	輸送業（社員）	取引先の様子	・大型連休前の2日間のみ荷動きは活発であったが、それまでは純く前年よりやや少なかった。	
	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・商品の販売数量は季節的な変動があるものの、総じて低調である。	
	通信業（部長）	受注量や販売量の動き	・景気自体は下向きではあるが、仕事量はそれなりに確保できている。しかし、利益率は低い。	
	広告代理店（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・客との話のなかでは、まだまだ景気の回復は見られない。まだ景気が低迷しているという話が多い。	
やや悪くなっている	金融業（融資担当）	取引先の様子	・新規取引先の開拓などで売上は確保しているが、一昨年からのコストアップから仕入価格が下がっていないため、減収傾向である。一方、関係加工場、仕入先は同業者の業況悪化で仕事量が大幅に減り、経営悪化傾向である。したがって関係仕入先に対して当社も原油価格低下による値下げ交渉を強く要求できない環境にある。	
悪くなっている	繊維工業（経営者）	競争相手の様子	・新規取引先の開拓などで売上は確保しているが、一昨年からのコストアップから仕入価格が下がっていないため、減収傾向である。一方、関係加工場、仕入先は同業者の業況悪化で仕事量が大幅に減り、経営悪化傾向である。したがって関係仕入先に対して当社も原油価格低下による値下げ交渉を強く要求できない環境にある。	
雇用関連	良く なっている	-	-	
	やや良くなっている	-	-	
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・提携している求人誌の撤退に加え、予定していた採用系のイベントも中止し、厳しい状態が続いている。求人自体のニーズが回復しない。
	やや悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・カーディーラーの広告出稿が激減し、不動産広告も従来ならそこそこ集まっていた企画への協賛が非常に少ない。特に分譲住宅では購入希望者がいてもローン審査が従来より厳しいとの声もある。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・企業などから送られてくる求人数や求人数が、前年の同時期と比べ、やや悪くなっている。
	悪くなっている	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・雇用調整を実施した事業所が3カ月前と比べると数倍に増えた。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・サービス業、公務を除く他のすべての産業で求人が減少した。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・有効求職者は4か月連続で増加しており、特に35歳未満の若年層は3か月連続で増加している。また、会社都合による退職者は、前年同期比で160%と激増しているが、この傾向がすでに4か月続いている。
		民間職業紹介機関（所長）	雇用形態の様子	・3月末で雇い止めで解雇、または派遣終了となった登録者が増えている。また、企業側の採用意欲は低く、減産・売上減のため、中途採用を中止する企業が増えている。